

＜記入の仕方＞

- 1 単元（題材）名を記入する。
- 2 教科の単元（題材）の目標を記入する。
- 3 支援の手立てを記入する。
 - ・必要な支援を別表「支援例一覧表」から選び、その番号を入力する。番号を入力すると自動的に支援の手立てが表示される。
 - ・「支援例一覧表」に適当な支援の手立てがない場合は、「支援例一覧表」の追加事項に支援の手立てを記入する。その後、その番号を入力すると自動的に支援の手立てが表示される。
- ※ 新しい支援の手立てを入力する場合は、必ず1学期のシートの「支援例一覧表」に入力する。
- 4 学期ごとに観点別学習状況の評価及び評定を記入する。
- 5 自由記述の欄に児童の授業における様子（したこと、できるようになったこと、課題など）を必要に応じて記入する。

小学校用

教育課程（A表）

＜様式2－2＞

（ 3 ）年 氏名（ A ）

音楽 1学期

単元（題材）	明るい歌声をひびかせよう
単元（題材）の目標	・ハ長調の楽譜に親しみ、音程に気を付けて階名で視唱したり、視奏したりして、読譜に慣れる。 ・自然で無理のない歌い方に親しみ、友達と一緒に歌う楽しさを味わう。
番号	支援の手立て
20	適切な声の大きさを視覚的に示す。
58	1時間の学習の流れを黒板などに書くなどして、見通しを持たせる。
69	事前に楽譜に階名を書く。
連絡事項	

単元（題材）	リコーダーとなかよしになろう
単元（題材）の目標	・リコーダーに親しみながら、その音色を感じ取ったり、基本的な演奏の仕方を身に付けたりする。
番号	支援の手立て
58	1時間の学習の流れを黒板などに書くなどして、見通しを持たせる。
81	リコーダーで階名ごとに押さえる場所を示した絵カードを準備する。
連絡事項	

単元（題材）	拍のながれにのってリズムをかんじとろう
単元（題材）の目標	・拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって表現する。 ・反復や変化などの音楽の仕組みを生かして、まとまりのあるリズムをつくる。
番号	支援の手立て
58	1時間の学習の流れを黒板などに書くなどして、見通しを持たせる。
69	事前に楽譜に階名を書く。
71	楽器の音を出すタイミングを合図する。
連絡事項	

	観点別学習状況	評価	評定	自由記述
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			

<支援例一覧表>

不注意	
1	周囲が気にならないように、刺激となる掲示物や物を取り除いたり布で覆ったりする。
2	個別に注目させてから指示を出す。
3	短く、一つずつ、具体的に指示を出す。
4	口頭での指示に加えて黒板に文字や絵を書いて示す。
5	活動の切り替わりや集中がとぎれそうなときに言葉を掛ける。
6	座席の位置に配慮する(見本となる子どものそば、後ろの席など)。
7	机の上に出す物の手本などを示す。
8	プリントは、色分けしたりスペースを広げたりして見やすいようにする。
9	個別で宿題や準備物を書いたメモを確認する。
10	配付プリントなどをファイルに入れるよう言葉掛けする。
多動・衝動性	
11	手持ちぶさたにならないよう事前に次の活動を示す。
12	気持ちを切り替えられる言葉掛け(キーワード)をする。
13	必要に応じて、カームダウンの部屋に行かせる。
14	1時間の学習の流れを黒板などに書くなどして、見通しを持たせる。
15	発表の仕方、話の聞き方、正しい姿勢を文字や絵で示し確認させる。
聞くことが苦手	
16	集団で説明した後、個別で説明する。
17	短く、一つずつ、具体的に指示を出す。
18	口頭での指示に加えて黒板に文字や絵を書いて示す。
19	宿題や準備物についてメモを取らせる。
話すことが苦手	
20	適切な声の大きさを視覚的に示す。
21	選択肢から答えを選ばせる。
22	言葉がスムーズに出ないとき、教師などが代弁する。
23	発表するときは、「いつ」「どこで」「誰が」などのキーワードを示す。
24	自分の考えをノートなどに書かせ、それを見ながら発表させる。
25	話しやすいグループ構成に配慮する。
読むことが苦手	
26	読みやすいように単語や文節を線で区切ったり、マーカーなどで線を引いたりする。
27	教科書の文字を拡大する。
28	問題文などを必要に応じて教師が読み上げる。
29	読めない漢字などは、事前に振り仮名を付ける。
30	音読を指名する際は、短い行にする。
31	音読を指名する際は、事前に読むところを予告する。
32	文章の内容がイメージできるように絵や写真を活用する。
33	キーワードを丸で囲む。
34	段落の関係を図で表す。
書くことが苦手	
35	マス目の大きいものやけい線のある用紙を用意する。
36	書く時間を確保する。
37	板書量が多いときは、写す範囲を明確に示して写させる。
38	写す量が多いときは、友達のノートをコピーさせる。
39	写す量が多いときは、デジカメで撮らせる。
40	文章を書くときは、イメージしやすいように写真や図を提示する。
41	文章を書くときは、キーワードとなる文字を示す。
42	作文を書くときは、下書きをさせてから書かせる。
43	作文を書くときは、「いつ」「どこで」などのアウトラインメモを用いる。
44	ワークシートを準備する。
45	宿題の量を調節する。
計算が苦手	
46	筆算をする際、マス目があるプリントを準備する。
47	計算の手順表をそばに置く。
48	計算をする際、九九表などをそばに置く。
49	練習問題をするときに、問題数を少なくする。
50	計算器を使わせる。
推論が苦手	
51	文章題の内容をできるだけ子どもの経験した場面や興味のある題材にする。
52	文章題のポイントを絵や図に書いて示す。

53	文章題の中で要点やキーワードになる言葉に印を付ける。
54	文章題に出てくる算数の用語(全部で、合わせて、残りはなど)の意味を説明し立式につなげる。
55	図形問題の際に、個別に言葉で説明を加えるようにする。
56	面や線の色分けした図形を準備する。
57	数量の変化がイメージできるような図表や手順表を準備する。
こだわり、感覚過敏、運動や実技が苦手	
58	1時間の学習の流れを黒板などに書くなどして、見通しを持たせる。
59	見本となる子どもの様子を見せてから活動させる。
60	具体的な行動を指示する(A君の後ろに立つ【○】、ちゃんと並ぶ【×】)。
61	ホワイトボードなどにゲームのルールを書いて、確認できるようにする。
62	活動内容や方法を事前に子どもと相談しておく。
63	気持ちを切り替えられる言葉掛け(キーワード)をする。
64	必要に応じて、カームダウンの部屋に行かせる。
65	音や気温、味覚、触覚(のりやボンド)などの感覚過敏に配慮する。
66	作業の手順を絵や写真、文などで示す。
67	使いやすい道具(はさみ、鉛筆、定規など)を使用させる。
68	紙などの折ったり切ったりするところに印を付ける。
69	事前に楽譜に階名を書く。
70	楽譜を拡大する。
71	楽器の音を出すタイミングを合図する。
72	歌い出しのタイミングを合図する。
73	鍵盤ハーモニカに階名のシールを貼る。
74	リコーダーの穴に厚みのある穴の開いたシールを貼る。
75	指を介助してリコーダーの穴の押さえ方が分かるようにする。
76	体の動きを具体的に説明する。
77	体の一部を介助して体の動かし方が理解できるようにする。
78	並ぶ場所やスタート位置をテープを貼るなどして視覚的に示す。
79	縄跳びの跳ぶタイミングを合図する。
80	水泳ではビート板や補助具を使わせる。
追加事項	
※1学期のシートの「支援例一覧表」の追加事項に支援の手立てを入力すると2学期以降の「支援例一覧表」にも反映され自動的に入力される(2学期以降のシートを入力する必要なし。)	
※新しい支援の手立てを入力する場合は、必ず1学期のシートの「支援例一覧表」に入力する(2学期や3学期の支援の手立ても1学期のシートに入力すること。)	
81	リコーダーで階名ごとに押さえる場所を示した絵カードを準備する。
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
97	
98	
99	
100	